

35周年記念事業

ママティド デイケアセンター竣工・寄贈式典に参加して

神谷尚孝

35周年記念事業の一つとして、30周年の際に行ったのと同様に、フィリピンへ「デイケアセンター」の建物を寄贈する事になり、前回（サンイシドロ デイケアセンター）同様にフィリピン・カブヤオ市にありますカブヤオRCと提携して建設事業が進められました。私達は資金を提供して、カブヤオRCは市と交渉して最適地（カブヤオ市ママティド）を選び、設計と監修に責任を持って当たりました。

送金額2百万円（送金手数料8,500円）で、地区のWCS資金より38名×6千円＝228,000円の補助を受けました。

2006年3月始めに、現場の工事進行状況写真が送られてくると共に、竣工引き渡しの日時の連絡が入りました。太田会員がカブヤオとの交渉、地区へは土屋会員、竣工式参加の現地通訳やスケジュール作りに八塚会員などが主に務められました。

竣工・引渡式には、山口幸也会長・釜中甫干35周年委員長・太田豊隆記念事業委員長・青木敏・保田博・土屋一博・神谷尚孝の7名が参加しました。以下にカブヤオ訪問の様子を記します。

2006年3月19日（日）関西空港より10:00発TG621便でマニラに向かう。13:10定刻にマニラ空港到着。空港で、通訳（ピンキーさん）や出迎えの6名のカブヤオRC会員との出会いに30分ほど待ちましたが、合流できて自家用車に分乗し Vivere Suites ホテルに到着。山口会長を中心に3日間滞在中のスケジュールを打合せする。このホテルの最上階に有るレストランからの眺めは素晴らしく、遙か遠方にはマニラ市が、眼下にはラグーナ湖が見渡せます。風は冷ややかで建物の陰では汗も出ません。

夕刻近くにショッピングモールを見学しましたが、屋内にジェットコースターやメリーゴーラウンド、子供電車が走る3階建ての規模の大きさに吃驚しました。また、日本の家庭用品や文具を専門に売るのが有り、ここには海南省大野と記された日用雑貨も売られていて、結構人気があるようです。



夕食は、この地域最大の病院を経営している医師のジョセ・サンチャゴ会員のお宅へ招待されました。お宅は柵とガードマンで守られた高級住宅地域の中に在り、アメリカの高級住宅地と変わらぬ立派な屋敷が点々と在ります。食事はお抱え料理人による物で、ピュッフェ形式ですが多くの種類を楽しめました。奥様も医師です。



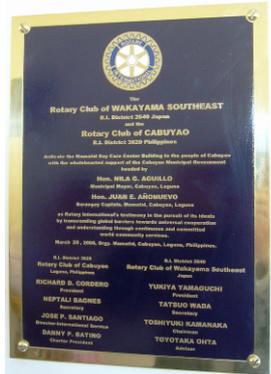


2日目朝5時半に起床、ゴルフ場へと向かいました。約40分農村地域に在るゴルフ場ですが、途中で工場誘致の開発に取り掛かり、頓挫した用地が所々に在りました。キャディーは各人に付き、コース内もほぼ乗用カートで廻れますので、それほど暑さの疲れはありません。コースの途中数カ所に、ライフル銃を持ったガードマンが木陰に立っていました。キャディーは片言の英語も全く通じませんが笑顔良かったです。

午後2時、市内に戻り今回贈呈する「ママメイド デイケアセンター」に到着しますと、市長始め大勢の地域の方々が待ち受けて下さっていました。現市長は5年前に贈呈した時の市長の夫人です。選挙でありながら、フィリピンらしいと言うべきでしょうか。お二人から歓迎を受けました。山口会長は役目柄スーツ姿で大変暑かっただろうと思いますが、緊張と双方の喜びの中にあって、苦にはされなかったようです。式典はテーブルカットから始まり、一人ひとり紹介された後、



リチャード コルデロ会長・バティーノさん、山口会長と太田会員のスピーチ、エベリン パララ市長の寄贈感謝の挨拶、ご来賓のスピーチが終わって、お土産の文房具を子供たちへ贈呈しました。庭に出て3本の記念植樹を行い、式典を終えました。ジュースとクッキーなどによる簡単な茶話懇談会が催され、喉の渇きを潤せました。この式典には地区ガバナーや近隣クラブの会長も参加されていました。建築は隅々まで良い仕上げをされていましたし、子供達、先生やご父兄の感謝の気持ちが私達に大きく伝わり、WCSの事業は大成功だと強く感じました。



ホテルで暫く休憩した夕刻、会員制のスポーツクラブへ案内して下さいました。ここには立派なレストランが有り、カブヤオクラブの会員も夫人同伴で出席されている方が大勢居られました。



私達が訪問した数週間前に、レイテ島のセントベルカレド町

が、集中豪雨による大規模な地滑りで、甚大な被害が発生した事が報じられていましたので、この席上、山口会長から我がクラブ全員が一人3千円を捧げた救援募金を贈呈しました。

ゴルフコンペの表彰式が行われ、なんと私が優勝して、リチャード コルデロ会長から盾を戴けたのは嬉しい限りです。二次会でカラオケバーへ案内して下さいましたが、日本人の若いホステスが働いていた事に驚きました。

三日目の朝、カブヤオRCの事務所および例会場に案内して下さいました。この3階建てのビルは、パティーノ創立会員の持ち物で、2階の一部を事務所に、3階の3分の1を例会場として格安で提供しているとのことでした。このクラブの年会費は5,000ペソで、例会出席毎に食事代250ペソを支払い、クリスマスには1人2,000ペソの献金をするそうです。
(1ペソ 2.5円)



見学の後、カブヤオRCが社会奉仕活動として実施している第7回「稚魚放流」行事に参加しました。稚魚は1回につき28,000ペソで仕入れ放流して、3ヶ月後に漁師はこの魚を全部捕獲すると、1,000,000ペソの売り上げになるそうです。単に現金での支援ではなく、労働意欲の向上を助ける、大きな社会貢献になっていると高く評価されているとのこと。パティーノさんと太田会員は漁師



さんと一緒に水牛の荷車に乗ってラグーナ湖の岸から300mほど沖に進み沢山放流しました。私達も岸边から放流させていただきました。

稚魚の放流後、5年前に贈呈したサンイシドロ デイケアセンターを訪問しました。主任の先生は当時と同じ方で、私の顔も覚えて下さり笑顔で出迎えて下さいました。私達の訪問に備え、子供達は絵や字を書いた歓迎のカードを作ってくれて、私達に沢山プレゼントしてくれました。先生は

5年前から作り始めた、素晴らしい出来映えの刺繍の額を山口会長に贈りました。東南 RC の方々は、必ずもう一度訪問して下さるだろうと信じて、自宅で暇を見つけては制作を進めていたそうです。前回、青木会員は会長として、太田会員は委員長として記念植樹をしていましたので、その樹が屋根の高さまで成長している事に感慨ひとしおの様子でした。



別れを惜しみながらサンイシドロを後にして、サンチャゴ会員の4階建ての病院の前を通り、マニラ空港に比較的近いレストランに招待して下さい、名物の蟹料理をいただきました。



空港では、私達の京都での35周年記念式典にご来訪下さることを約束しながら別れ、16:25 発 TG620 便で、21:00 関西空港へ全員元気に帰国しました。